

安全衛生・兵庫

鳥の目「鳥の目」
虫の目「虫の目」
魚の目「魚の目」

安全に作業するためには、どのような視点で物事を捉えればよいか。今回は、自然の生き物の3つの目、「鳥の目」「虫の目」「魚の目」でシンプルに考えてみます。

◆「鳥の目」

鳥は、大空をとび、地上を大きく眺めることができます。鳥の目のように、「**全体を俯瞰して状況を的確に把握する**」視点が大切です。

山での調査等に取り組むときは、その作業の流れを俯瞰（高いところから見下ろす、全体を見る）し、全体の仕事の中での位置づけを十分理解し、大局を把握することが大切です。

目の前に見える事だけでなく、上空から地上全体を見下ろすような視点で、視野を広げて見るというほどの意味になります。

・作業におかれて、安全確認等の本当に大切なことがおろそかになっていないか。

・作業環境がこれからのように変化していくのか、配慮すればよいか。

・優先的に改善すると効果がある課題はないか。現場での作業こそ、この鳥の目で仕事をする**ことが安全の鍵、成長の鍵になります。**

◆「虫の目」

虫は、複眼でさまざまな角度で広い世界をみています。

虫の目のように、外敵をすばやく察知して、小さい体で生きぬくために、

「**様々な角度から、不安全の小さな変化をよみとる**」ことが大切です。



・職員各々の声に耳をかたむけ、異なる視点から課題に対する解決策を見出すことが大切です。
・自分の目でみた現場の問題点をもとに、改善につなげられているか。
・道具の手入れ不足はないか。

現場作業で、日頃大切にすべき視点が、虫の目です。周りの生きた情報を取り入れて、安全活動に活かすことが大切です。

◆「魚の目」

魚は、自然の海や川の中でたくましく生きています。魚の目のように、潮の満ち干きや川の激しい流れを感じ、空や海からの外的からも身を守ると同時に、自らもえさを探すように、「**山では常に危険が潜んでいる、作業環境の変化などの流れをよみとる**」ことが大切です。



・季節により環境が変化することで、問題が発生する恐れはないか。
・突発的な事象と傾向的な事象を意識して改善できているか。

「虫の目」は、ボトムアップ的で現場の実態が詳細に見える反面、近視眼であるため全体が把握しにくい特徴があります。

「鳥の目」では、トップダウン的で全体を把握できる反面、詳細まではつかみにくい特徴があります。その両者の特徴の欠点を補い、詳細（ボトムアップ）と全体（トップダウン）をつなぐ役割を果たしてくれるのが、変化や流れを把握する「魚の目」といえます。

◆車の運転でも、この「三つの目」が必要なのではないのでしょうか。

「鳥」のように交通の流れ全体を俯瞰し、「虫」のように細かい部分に様々な角度から注意を払って、「魚」のように（自分の周囲の）車の流れに乗ることは、ドライバーとして常に気

を配っていなければなりません。

◆生き物に学ぶ3つの視点を紹介しましたが、日頃は、目先の作業におわれて、虫の目で一杯になりがちです。

「鳥の目」「虫の目」「魚の目」のバランスをとり、**多角的で実践的な視点で安全意識の向上と安全作業の質を高めていきましょう！**（次長）

3月の健康管理のポイント

風邪やインフルエンザの流行が過ぎ去り、暖かくなるこの季節。スギ、ヒノキなどの花粉症を始め、年度末を迎え何かと忙しく、精神面でトラブルや不安も抱えやすい時期です。

■スギ花粉症のピーク

スギ花粉の飛散量が最も多くなる月。飛散量と症状の強さは必ずしも一致しませんが、花粉症の人には辛い月です。花粉飛散量を把握して、マスクの着用、不要な外出を避ける、自分の症状にあう薬を見つけるなどの工夫が大切です。



■過眠・睡眠障害

「春眠暁を覚えず」という言葉にあるように、強い眠気を感じる人が多い時期。徐々に暖かになっていく気候だけでなく、花粉症の薬などが原因になっていることもあります。あまりに眠気が強い場合は睡眠障害が伴っていることも。

「上手なカフェインの取り方」「眠気を取る技やツボ」など、眠気の解消法はさまざま。自分にあつた眠気解消法で、春の眠気を効果的に解消し、新年度に向けて快適なスタートをきりましょう。



この花なあに？